

牛久市文化財保護審議委員 栗原 功

ひたち野中央(旧北部区)史概要 前編

明治初期に元勲吉井友実(旧薩摩藩士)が原野を開拓して農場経営にあたったのが開村端緒

明治初期の開拓の起源
— 失職旧武士の就農 —

慶応3年(1867年)10月、江戸幕府・徳川第15代將軍慶喜が明治天皇に大政奉還すると、同年の12月に王政復古の大号令が発せられ、天皇親政のもとで、明治新政府が発足した。

新政府は、幕藩体制を解体して中央集権を確立するため、明治2年(1869年)に各藩主に、版(土地)・籍(人民)の奉還を願い出させた。ついで同4年7月に、参議として首班格に立っていた西郷隆盛、大蔵卿大久保利通、参議木戸孝允、参議板垣退助らが政府中枢を固めて廃藩置県を断行し、ここに薩長藩閥による中

央集権体制が完成した。

一方、新政府が掲げていた最大の国策『富国強兵』は、日本の国が列強(欧米諸国)に植民地化されるといふ危機から脱するため、近代的軍力創設をめざすものであった。そのため明治6年(1873年)に徴兵令(成年男子に兵役の義務を負わせる)を公布した。徴兵令は、武士団を解体して近代的軍隊を創設するもので、しかも兵は一般の農民・市民のなかからの徴兵であったため、同令施行によって士族(旧武士で中・下級の者が多い)が定職を失い、多くの者は生活困窮に陥った。

大久保内務卿が立てた対策
— 失職士族に荒蕪地を開拓させ就農させる —

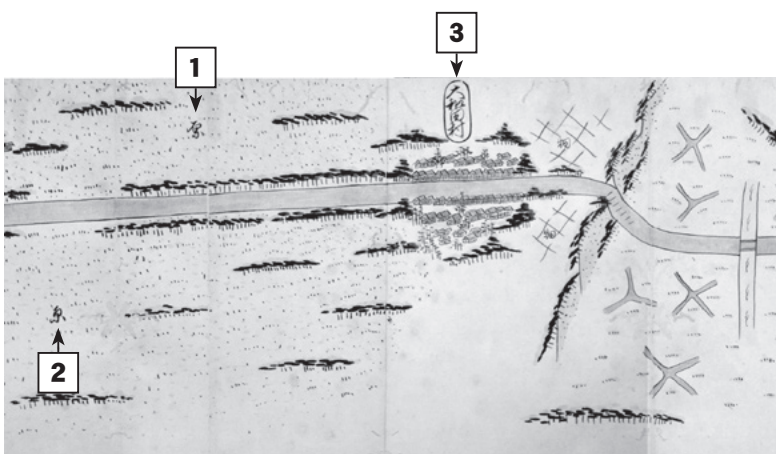
失職士族対策は、長州閥の参議山縣有朋の建議があつて、参議兼内務卿の大久保利通が決裁して執行されていた。これに対して、西郷が『大久保よ、徴兵制を撤廃したまえ、武士たちは乞食同然だよ』としばしば要求したが大久保は聞き入れなかった。

ところで、大久保利通は、西郷隆盛、木戸孝允とともに『維新の三傑』と称えられた。新政府が成立すると総裁・議定・参議の三職がおかれ、三傑たちは参議に任せられた。大久保の場合は、政府の中枢にあり、大蔵卿、ついで参議兼内務卿に任せられ、明治7年(1874年)に西郷らが下野(官職を辞して民間に下ること)してからは事実上首班の立場にあつた。大久保内務卿は、徴兵制を施行する代わりに失職士族に対して、就農、就商(商工業を奨励し、就農者には荒蕪地を開拓させてそこへの移住を、また就商者には資金貸与などの細かい手だてを講じた。

御雇外国人が踏査に入る
— 東大和田・中根・岡見・女化などの原野 —

大久保内務卿は全国各地の荒蕪地へ調査団を派遣していた。明治8年(1875年)が明けて間もなく、御雇米国人デダフルユージョンスを団長とする一行は、栃木県から茨城県に入り、筑波山麓を通過して、土浦に至った。右粉原

(現土浦市)、阿見原(現阿見町)を踏査し、さらに東大和田原・中根原・下根原・岡見原(以上は現牛久市)を順次踏査して女化原に至った。同年2月にジョンスが大久保内務卿に提出した報告書の概要は、『下総常陸ノ三分ノ一ハ荒蕪地ナリ』と指摘し、荒蕪地には『米作以外の穀物産をもつてするよう』勤めている。



水戸土浦道中絵図(あびこ版)・提供 我孫子市教育委員会

水戸土浦道中(街道)絵図は土浦藩第3代藩主土屋篤直が、江戸幕府徳川第9代將軍家重治世下の宝暦8年(1758年)に江戸から国元土浦への帰路の際したためたとされている。

- 1・2 『原』がのちの北部地区、現在のひたち野東・西にあたる。
- 3 『大和田村』は東大和田町で行政区は大中区